

大関 学西 新学 聞院

2026年10月5日 第875号



■発行■

関西学院大学新聞総部
〒662-0891
西宮市上ヶ原一番町1番155号
HP: www.kgpress.jp
X: @KG_shinbun
Instagram: kg_newspaper_club



インタビューに応じる豊中市・長内繁樹市長
＝6月23日、豊中市役所第一庁舎、仲悠士撮影

本学経済学部卒 豊中市・長内繁樹市長

豊中を「選んでもらえる街」へ

大阪府北部に位置し、約40万人が暮らす豊中市。本紙は4月に行われた豊中市長選で再選を果たした、本学経済学部OBの長内繁樹市長にインタビューを行った。

―関学大に入学したきっかけ
数学が苦手だったので、英語、国語、日本史の3教科で受験できる私大を目指していた。甲東園駅からの坂を登り切った場所から見える景観を見て、関学大に行きたいと思った。

―印象に残った授業
財政学のゼミ。付加価値税を導入したら日本経済にどのような影響を与えるのか考へ、導入派と反対派に分かれて議論したのが面白かった。

―大学卒業後、池田銀行（現池田泉州銀行）に就職
いくつかの地方銀行から内定をもらっていた。その中で、池田銀行の社風が自分に合うと感じた。

―豊中市に転職した経緯
当時の銀行での業務は今とは違い、とても単純なものだった。そこで、もっと幅広い

―公務員時代の苦労
印象深い経験は阪神・淡路大震災だった。大阪府内で豊中市が一番大きな被害を受けた。そのため、1月から3か月ほどは通常の業務を行わずに、避難所の体育館に行き、食事の状況を確認したり、パンを届けたりしていた。また、避難者の経済状況によって、早く生活を再建できる人ときかない人が一極化するという問題があった。その経験から、自分が健康福祉部長になったときは、普遍的な福祉政策を実現できるように、障がい者福祉制度を充実させることや生活困窮者にアクセスすることなどに注力していた。

―市長選出馬の理由
職員の知恵を借りながら、それぞれの現場の課題を市民サービスの向上につなげたいと思い、選挙に臨んだ。

―豊中市は小・中学校の修学旅行費、副教材費の無償化や小学校の給食費の無償化など教育政策を充実させている。
コロナ禍において、学生にとって思い出に残るべき体験の機会がなくなってしまうことにショックを受けた。そこで、豊中の子もまたには一律で、学習や体験の機会を保証したいと強く思った。ただ、無償化したからといって質を落とすのではなく、無償化するとともに、質を上げていくように現場にもお願いしている。

―昨年の8月、豊中つばさ公園「Is-zila」が開業
豊中に特色ある観光資源を作ることは長年の課題だった。たまたま千里川土手に行ったときに、ここを整備したら見どころになると思った。オープンから3月末まで、20万人を超える方々が来場してくれた。SNSの力は大きいと感じた。昔は騒音によって「疎まれる空港」だったのが、機材の低騒音化などで、「憧れられる空港」に変わっていく。その過渡期に、このような公園が整備できた

―豊中市の魅力
昔の相互扶助の思いが残っており、人のコミュニティが

大学時代は「Master for Service」とは何のことかわからなかった。その後、全体の奉仕者である公務員になり、その公務員のトップである市長になって、「Master for Service」の概念がなんとなく分かってきた。その精神に基づいて、施策を推進していけないといけないと思う。

※豊中つばさ公園「Is-zila」
2025年8月一部開園。
2027年3月全面開園予定。着陸する飛行機を間近で快適に鑑賞することができる。ドッグランやバーベキュー広場なども完成する予定となっている。

プロフィール

長内 繁樹 氏（おさない しげき）
豊中市長・中核市市長会会長
大阪府出身。1981年関西学院大学経済学部卒業。83年豊中市に採用される。2010年健康福祉部長。14年副市長。18年第24代豊中市長。22年第25代豊中市長。25年中核市市長会会長。26年第26代豊中市長。

―3期目にあたって取り組みたいこと
「選んでもらえる街」にすることが、街の活力にとって必要だと思う。住宅都市や文教都市としてのイメージアップにつながるようなことをしていきたい。豊中に住んでみたいと憧れを持ち、転入してきてもらう。そして、住んで良かったと感じ、人に勧めてもらえるような街にしたい。

―大学時代の学びで今に活かしていること
大学時代は「Master for Service」とは何のことかわからなかった。その後、全体の奉仕者である公務員になり、その公務員のトップである市長になって、「Master for Service」の概念がなんとなく分かってきた。その精神に基づいて、施策を推進していけないといけないと思う。

新聞総部は10月、学生会館新館3階から同館2階に移転した。その際に、学生連盟本部から棚を譲り受けた▼学生連盟の発足当時の写真にも写っていたというその棚は、高さ88、横176、奥行き40の棚を二つ縦に重ねた、どこにもありそうな見た目だった。しかし、その背面には「世界革命」や「斗争」の文字が書かれていた▼「斗争」は「たたかう」と読み、学生運動が盛んにおこなわれていたことが豊中の売りかなと思う。

―関学生へのメッセージ
貴重な4年間なので、できるだけ様々なことにチャレンジして、楽しんでほしい。

た時代に「闘う」の意で用いられていた▼本学でも一時は全学閉鎖の事態に陥るほど活発な運動が行われたそうだが、学生運動をきっかけに学生会は活動を停止し、学部自治会も数を減らした▼学生連盟が今の形で存在しているのも、60年代、70年代の学生運動の流れを汲んでいるためだ。その学生連盟も今年で発足から10年が経つ▼時代が移り変わり、価値観も大きく変わった現代において、学生運動が盛んだった当時の先輩の思いは、推し量ることすら困難である。しかし、先輩方は確かにそこに存在したのだ。そう教えてくれる、時代の生き証人に会ったような気がした。

◇大阪府豊中市



新聞総部は10月、学生会館新館3階から同館2階に移転した。その際に、学生連盟本部から棚を譲り受けた▼学生連盟の発足当時の写真にも写っていたというその棚は、高さ88、横176、奥行き40の棚を二つ縦に重ねた、どこにもありそうな見た目だった。しかし、その背面には「世界革命」や「斗争」の文字が書かれていた▼「斗争」は「たたかう」と読み、学生運動が盛んにおこなわれていたことが豊中の売りかなと思う。

食堂リニューアル
混雑緩和と快適環境 12

PICKUP NEWS

松永K三蔵さん
母校図書館で講演 2



CIEC 情報誌創刊
学内で国際交流を 3



マンドリンクラブ
第100回公演に向けて 6



トップコーヒー
関学正門前の喫茶店 9



「NicoPa」廃止
関学 NicoPa は検討中 10



食堂リニューアル
混雑緩和と快適環境 12



松永K三蔵をつかった本棚 大学図書館展示

西宮上ヶ原キャンパスでの企画展示の様子
大学図書館提供



関西学院大学図書館はLibrary Seminarにあわせて、6月22日から7月31日まで、企画展示「松永K三蔵をつかった本棚」を行った。展示では、松永さんの推薦で本が集められ、ポップが添えられていた。ポップは図書館の学生ボランティア団体「月の栞」のメンバーが作成した。

大学図書館学生ボランティア団体 「月の栞」誕生

大学図書館の目的の一つは「知の交流拠点・創造の空間」を構築することだ。その一環で、図書館は新たな試みとして学生ボランティアを募った。
利用サービス課の赤坂章さん(42)は「我々(職員)とボランティアスタッフが対等な関係でいたいと思っている。一緒に図書館をつくっていくパートナーになつてほしい」と期待をにじませる。
「月の栞」という名前は、本に挟む栞のように、学生と図書館の間に入る活動をするというビジョンを示している。「月の栞」は、団体名称が決まらないまま活動していた期間もあったものの、名称決定のプロジェクトを立ち上げ、8月のオープンキャンパスを前に完結した。
大学図書館はフイウライブラリーという考え方を大切にしている。これまでに交じり合ってきた人と人、人と資料に接点ができ、新たな学びが生まれたらいい。
「月の栞」はこれからも、図書館と学生の協力によってさまざまな活動を行う予定だ。
(坂口智朗)

スタンプラリー大盛況

月の栞 活動
来場者「笑顔で接してくれた」

関西学院大学図書館

8月1日と2日、関西学院大学図書館は、西宮上ヶ原キャンパスで開催されたオープンキャンパスの企画として、スタンプラリーを実施した。学生ボランティア団体「月の栞」のメンバーが広報や企画に参加し、当日は来館者の案内や景品の受け渡しを行った。
図書館の見学を訪れた人は2日間で延べ9791人に上った。高校生らが図書館を見学するほか、閲覧席で休憩したり、移動する電動書架を

動かしたりする姿もみられた。
スタンプラリーの達成者は計454人だった。参加者は、普段あまり触れる機会のない大学図書館を、スタンプラリーを通して探索した。
「月の栞」は、景品の図書館オリジナルシールや、メンバーが考えた受験生への応援のメッセージを参加者に手渡した。また、館内で参加者のサポートや、来館者の案内も行った。
図書館が実施したアンケートの回答には「職員の方々、図書館内にいらした方が大



「月の栞」のメンバーら8月2日、小林颯翔撮影

(坂口智朗)

学生の方々が笑顔で接してくれて楽しかったです！」などの声が寄せられた。
(田爪翔)

オープンキャンパス 2026夏

大学部活の魅力 高校生に伝える

学生連盟本部 初開催

関西学院大学学生連盟本部は8月1日と2日に西宮上ヶ原キャンパスで、8日は神戸三田キャンパスで、オープンキャンパス課外活動紹介ブースと7総部講演を開催した。部活動のまとまったオープンキャンパスでの取り組みは初めて。

学生連盟加盟団体から計14団体、競技スポーツ局学生広報チームの出演があった。ブースと講演で西宮上ヶ原では約600人、神戸三田では約1000人の生徒と保護者が参加した。
ブースでは部活動のこと以外に学校生活、入試等についての相談に応じる担当者の姿が見られた。高校の部活動をそのまま続けたいという来場者の相談に応じている団体もあった。団体によってブースの対応方法も様々で、将棋部では来場した生徒と将棋の対局が行われていた。
7総部講演では応援団総部をはじめとする総部が自団体及び傘下団体の講演を行い、来場者は耳を傾けた。
参加した文化総部団体の関係者は「高校生と話して相談に乗ったのは初めてだった。今後機会があれば参加して手助けになりたい」と話した。
(田爪翔)

芥川賞作家

松永K三蔵さん 講演

関西学院大学図書館は7月3日、大学図書館ホールで、Library Seminar arを開催した。今回は「バリ山行」で第171回芥川賞

を受賞した作家の松永K三蔵さん(文学部卒)が、「わからないままで生きること」をテーマに講演を行った。約80人の関学生らに、AI



学生時代を語る松永K三蔵さん＝7月3日、大学図書館ホール、佐藤朝陽撮影

Library Seminar 2026

(人工知能)によって容易に答えが得られる時代における純文学の意義と「知性」とは何かについて語った。
松永さんは関学大を卒業した後、障害者福祉や建築、不動産の分野で働き、転職を重ねた。苦しい経験もあったが、それでも幸せに生きてこれたのは「これらの経験は(全部小説に書けるな)」という思いに支えられたからだだった。実際に、自身の経験が「バリ山行」にも生かされていると明かした。
また、松永さんは、歴史には残らない人の痛みがあることや「最大多数の最大幸福」

からこぼれ落ちるものがあることを指摘した。そのうえで、文学の役割は「記録に残らない痛みを書いていく」ことにあると語った。
さらに、純文学とは「本質を書く」ものだと言った。なぜ生きるのか、なんのために生きるのか、この世界とは、人間とは、人生とは……。このような答えのない問いに向き合うとき、文学は立ち現れる。生きていくと、自分が本当に何を求めているのかが分からなくなる。そのとき、文学によってそうした本質に気づけるのではないかと語りかけた。



関学生らに講演する松永さん

AI時代における知性とは

続けて、不条理や答えのない問いがあるなかで、知性とは「答えの出ないことにずっととどまり続けること」なのではないかと説いた。また、私たちはAIに聞いても答えの出ないことに可能性を見出すのではないかと投げかけた。
松永さんは、AIにメジャーリーガーになれる確率を聞くと0.03割と回答することを例に挙げ、もし大谷

翔平選手がその数字を見て夢を諦めていたら、現在の活躍はなかったと指摘した。
また、AIは芥川賞を受賞できる確率についても同様に低いと答えるが、松永さんは「書きたいから書いてきた」と振り返った。そのうえで、AIが示す確率は統計に基づく数字にすぎず、「自分自身という変数によって結果は変わる」と強調した。
最後に、講演のテーマについて、「分からないままに大学を卒業して、はつきり言っても分からないままなんです。ただ、それすらも楽しんでできたんです」と率直な思いを明かした。
松永さんは終始ユーモアを交えながら語り、会場から何度も笑いが起こった。
(今村早織)

学生CO 関大生と交流

9月7日、学生コーディネーター（学生CO）は関西大学ボランティアセンターの学生スタッフ12人を西宮上ヶ原キャンパスに招き、他大学の学生との交流を行った。

学生COはまず、普段の活動場所であるヒューマン・サービス支援室や吉岡記念館2階の分室を案内した。ほかにも、6月に展示企画を開催した大学図書館についても紹介した。

場所をG号館に移した一同は、両校の取り組みについてスライドを用いて発表し、それぞれの活動を紹介し合っ

た。両校の学生が協力して行うボランティアにもふれられた。

コーディネーション体験では、関学大の学生が関西大の学生の相談にのるという想定でボランティア紹介（窓口コーディネーター）を行った。具体的なボランティアの話題にもつながり、両校の違いについて興味深そうに情報を交換していた。

終始和やかな雰囲気で行われた交流会。終了後も関西大生にキャンパスツアーを行うなど、良好な関係が見られた。

学生COは、8月7日に関西大を訪問したほか、同月28日には名城大学社会連携センターとの情報交換を、9月16

日には立命館大学の学生との交流を行うなど、大学間交流・連携の機会が広がっている。（坂口智朗）



アイスブレイクでミニゲームを行う両校の学生ら＝坂口智朗撮影

CIEC NEWSLETTER 創刊

国際協力プログラム紹介



ありそうでなかったメディアが、関学大に新たに誕生した。

6月4日、国際教育・協力センター（CIEC）は「CIEC NEWSLETTER（シエック・ニュースレター）」を創刊した。これは留学生支援など、関学大の国際化に関する取り組みに着眼したメディアである。創刊号の紙面では、留学希望向けの英語学習に関する授業の案内や、国際寮（有光寮）で留学生の生活や寮内の交流を支援するレジデント・アシスタントの記事など、関学大の国

際的な取り組みを幅広く取り上げた記事が掲載されている。

CIEC NEWSLETTERの編集を担当する武田優子さんによると、創刊のきっかけは、教職員での意見交換の際に「関学生の海外留学は盛んな一方、留学生の受け入れが芳しくない」という意見が出たことだったという。「留学だけでなく、関学大で学ぶ留学生のことももっと知ってもらい、学内での国際交流をより活発にしていきたい」という思いから、CIECとしてニュースレターの

この学生に 注目! ほっとコミュニティ 元代表 黒田祐一郎さん 社会学部4年



黒田祐一郎さん＝本人提供

黒田祐一郎さん（社会学部4年）は、子ども向け撮影会事業「キッズ時計」に参画している。同時に、将来の会社立ち上げに向けた準備を進める。

また、かつて代表を務めた学生ボランティア団体「ほっとコミュニティ」にも所属し

ている。ボランティア活動で培った「子どもたちのために」という思いを軸に、企業のプロモーションなどの活動を続ける。

黒田さんは大学1年の秋「ほっとコミュニティ」に入会した。西宮市内の児童館での子どもたちとの交流したほ

か、地域イベントの手伝いなどに取り組んだ。3年時には代表に就任し、当時約130名だった団体を現在は約180名が所属する団体へと成長させた。「元々人をまとめるのは得意ではなかった」と語る黒田さんが、全員が楽しめるイベントを企画し、参加しやすい環境づくりに努めた。

活動を通じ、「もっと子どもたちの役に立つ活動をした」という思いが強まった。そこで、子どものモデル撮影イベントを展開する「キッズ時計」で活動を開始した。トイザらスや上野動物園とのコラボ企画や営業を次々と成功させた。さらにタイやフィリピン、香港といった海外展開にも着手している。

現在は「キッズ時計」での事業に加え、自身のITエンジニア派遣事業の立ち上げに向けた準備もしている。活動の原動力について、黒田さんは「子どもたちに喜んでもらえること、自分の努力が形になること」と語る。

将来は事業をさらに拡大させ、世界中を拠点にできる働き方を目指す。関学大に向けて「枠にとらわれず、好きなことにどんどん挑戦してほしい」とメッセージを送った。（梅田芽衣）

発行を決定した。

武田さんは、ニュースレターの目的について、「本学の国際化の取り組みを学生や教職員に広く知ってもらうこと。また、海外に行かなくても学内で国際交流や異文化理解を深める機会があることを伝え、国内学生と留学生との

交流を促進するとともに、教職員にも国際化への理解と協力を広げることにある」と熱弁を振った。

武田さんは学生に対して、kwiicのキャビネットからCIEC NEWSLETTERを是非見て欲しいと呼びかけ、「学内の国際交流に関

（山口聡大）

「おいしさ」の力で社会課題に向き合う会社に 関学MBA修了 MCC食品 水垣佳彦社長

エム・シーシー食品株式会社が発売するレトルトカレー、「消防隊カレー」のパッケージの裏側には、被災に役立つ情報が記載されている。これは水垣佳彦社長が、入社して間もないころに神戸市消防局と共に生み出した商品だ。

水垣氏は神戸学院大学法学部を卒業後、約16年間、他社で勤めた。その後、エム・シーシー食品株式会社に入社し、関西学院大学経営戦略研究科に入学した。入学してすぐ、周囲の学生たちの学ぶ意欲の

高さに驚いた。教室は前から席が埋まり、授業では多くの学生が積極的に手を挙げる光景に、衝撃を受けた。

会社勤めをしながら通った2年間は、人生で最も勉強した期間だったという。様々な業界で働く人たちの交流は刺激的で、現在でも考え方に影響を与えている。

社長就任にあたり、水垣氏は「おいしさで共に未来を創造する会社」をコーポレートメッセージとして掲げた。おいしさに誇りを持ち、社員や地域の人々、消費者と「仲間」

「消防隊カレー」は、阪神・淡路大震災の甚大な被害に悔しさを抱えた消防局員による、熱意あるプレゼンテーションがきっかけで誕生した。これはメッセージ性を強調した初めての商品企画であった。

水垣氏と消防局員の尽力により商品化が実現すると、社会貢献につながる商品として反響を呼んだ。結果的に同社のブランド価値を上げることにもつながった。水垣氏は「店頭で手に取ってもらっただけでも被災知識が目に入る。災害について考えるきっかけになってほしい」と語る。

最後に、水垣氏は関学学生に向けて、時間に余裕がある大学生だからこそ、時間の価値に気づいてほしいと語る。「時間を無駄にすることなく、何かに打ち込み、勇気をもって挑戦してほしい」と微笑んだ。

(八島みのり)



水垣佳彦社長
11月30日、エム・シーシー食品株式会社本社、渡邊暖菜撮影

商学部出身 深谷龍彦氏

30年務めたネスレでのキャリアへの想い

関学生へのエールを語る

関西学院大学商学部を卒業後、ネスレ日本株式会社で代表取締役社長兼CEOを務めるなど、30年にわたり活躍してきた深谷龍彦氏(52)。本紙はインタビューを通じて、深谷氏にキャリアへの想いと関学生へのエールを聞いた。

就職活動では、ブランドマーケティングに携わりたいと考え、それに強みをもつ会社を受けた。働きたい会社に重きを置く「就社活動」をしていたわけではなく、マーケティングの「職」を探していたと振り返る。最終的に「生活の一部にあって、自分が想いを込められるもの」に携わりたいという想いで、元々好きだったコーヒー事業があるネスレ日本株式会社に入社した。

入社後はマーケティングに長く携わり、「担当している商品のことを一番好きになる」ことを大切にしていた。担当しているブランドの一番のファンであり、一番のヘビークーザーであり続ける。ヘビークーザーの人は一日に5杯6杯のコーヒーを飲む。それならばマーケティングはその倍を飲む。コーヒーを楽しむシーンはさまざま。消費者の倍の経験をして、「消費者の気持ちをどれだけ理解できるマーケティングになれるのか」というのが何よりも大切と力を込める。マーケティングの熱意と努力が、ネスレらしい体験を消費者に届けている。

消費者の気持ちを深く理解する姿勢は、商品の開発にも生かされている。深谷氏が特に思い入れがある商品の一つが、「ネスカフェチャージ(現「ネスカフェ エコ&システムパック」)だ。すばやく詰め替えられる形状が特徴で、詰め替え時に中身がこぼれるといた時には、会議中に「ちょっとさ、めっちゃ変なこと言っているよ」などとあえて発言していた。そうした発言が、周囲も自由に意見を出しやすい雰囲気づくりにつながった。

コミュニケーションに関して大切になっているのは、相手に合わせて話す内容や話し方を変えることだ。TOPPANホールディングス株式会社(現「ネスレホールディングス株式会社」)に試作を依頼したという。その柔軟性はネスレの社風を象徴している。

深谷氏はこれまで多くの挫折も経験してきた。その時点で挫折や失敗だと思ったとしても、「その後の自分の頑張りで覆せる」と強調する。回り道をした結果、「いい経験をしたことは後々役に立っていると思う」。

物事を俯瞰的に見るためには、自分とは異なる考え方の人と話すことが必要だ。同じ結論にたどり着くとしても、自分とは違う考えを知った上で決めることに価値がある。「自分と考え方が似ている人だけと話していたら、ダイバーシティとかインクルージョンって生まれへん。自分1人の知識でカバーできることには限界がある。年齢や性別、国籍を問わず、いろいろな人と話すことが重要だと語った。

働くなかで深谷氏が繰り返し伝えてきたのは、自分の意見を持ち、自分の言葉で発言することの大切さだ。考えたことを率直に発言で送った。

(今村早織)



取材に応じる深谷龍彦氏
11月23日、ネスレ日本株式会社神戸本社、八島みのり撮影

台湾から見た 日本の就職活動

留学記者目線から

台湾の大学に留学して、気づいたことがある。大学生のキャリアに対する意識の違いだ。

日本の大学生が大学外での活動に力を入れてガクチ力を作るのに対して、台湾の大学生は語学力や専門性を高めることに重きを置いている。こうした違いには、企業の採用方式が大きく影響している。

職種を限定せず、人柄やポテンシャルを判断基準として採用活動を行うメンバーシップ型採用は、日本独自の雇用方式だ。一方で、台湾を含む諸外国で主流なのがジョブ型

採用だ。

ジョブ型採用は、職務内容に応じて、専門性を持った人を採用する雇用方式だ。就職する時点で専門分野に対する知識・技能が求められる。

そのため、台湾の大学生は長期インターンシップや大学院への進学を通じて、自分の専門性を高めることが求められている。

近年、ジョブ型採用を行う日本企業が增えている。企業側はスキルを持った人材を確保できるため、教育にかかるコストや時間を節約できる。

また、求職者は自分に合った

職務に就くことで、専門性を高めることも可能だ。

一方で、日本でジョブ型採用が広く普及することには懸念もある。若年層の失業率の増加が予測されるからだ。

日本の若年層失業率は4%前後を推移している。一方で、台湾の若年層失業率は約11%だ。これは台湾の全体失業率である約3.3%²と比べてもかなり高い数値であり、若者の就職が難しいことを示している。

他の先進国でも同じ傾向が見られ、その原因の一つとして実務経験や即戦力が求めら

AIは、一見まともなことを言うように思えるが、他方では、当たり障りのないことしか言わないようにも感じられる。最近では「ググれ」という言葉も見なくなり、AIを活用する人が増えているのだから、ジョブ型採用があげられる。専門性に乏しい若年層は就職が難しく、専門性を身に付ける機会も十分ではないからだ。

今後の日本におけるジョブ型採用の在り方を今一度見直す必要がある。（杉谷拓樹）

と実感する。

松永K三蔵さんは2003年、内定を得ないまま文学部を卒業した。その際、友人に「また戻ってきて、関学で講義をする」と話したという。この度、その宣言通りに「わからないままで生きる」と。と題した講演を行った。

講演では、AIが発達した現代でも、いまだに答えの出ない問いについて触れられた。「なぜ生きるのか?」「人間とは?」「人生とは?」

当然のことのように、松永さんは「わからない」と口に

する。そこには、解決すべきことに「問いに留まり続ける」とは「世界と向き合っている」と「だ」という考えがある。

わからない、できないことを素直に認めることは難しい。ときに苦痛を伴うこともあるはずだ。それでも「わからないまま生きていく」によつて、見えてくるものがあるのだろう。わからないことはA-Iに聞くや答えが得られる。だからこそ答えを出せなくてもいい、自分で考えてみよう。そう思わずにはいられない講演だった。(坂口智朗)

ジョブ型と

メンバーシップ型

罪の言

わからないままに生きる」と。

松永K三蔵

7月28日、熊本県を震源とする大きな地震が発生した。2016年4月に猛威を振るった熊本地震からちょうど10年目という節目に、再び現地を襲った試練に強い衝撃と胸の痛みを禁じ得ない。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げるとともに、一刻も早い安全の確保と復旧を願つてやまない。

理念を体现してきた。

本学における被災地支援の原
点は、1995年の阪神・淡路
大震災にある。自らも甚大な被
害を受け、学生15人と教職員ら
8人の計23人の尊い命が失われ
た。当時の教職員や学生たちは
深い哀しみの中から立ち上が

いと著え、大学は被災地支援ホ
ランティアバス「あいのりバ
ス」によって1000人以上に
もわたる学生を送り出した。学
生団体も東日本大震災に関心を
寄せ、応援団総部は東日本大震
災の被災地へエールを送る企画
を行った。

よつと有志で団体を立ち上げ、学生らもいる。阪神・淡路から熊本、そして能登へと続く支援の系譜は、困難に直面した地域社会に寄り添い続ける本学の確かな矜持である。

10年という歳月は、当時の記憶を風化させるには十分な

災害はいつ、どこで起きるかわからない。だからこそ、阪神淡路の教訓を持ち、能登や熊本との絆を紡いできた私たちが今なすべきことがあるはずだ。

まずは現地の正確な情報に心を寄せ、被災地の「今」に思いを馳せること。現地への募金

大学新関西学院

硬式野球部

全日本大学野球選手権ベスト16

新聞総部

日進月歩

熊本地震から10年目の試練
災禍の記憶を紡ぎ、支援の系譜を次代へ

た。2016年度から2019年度までの4年間で、ボランティアとして参加した関学生は延べ318人になる。瓦礫の撤去や避難所運営の補助、被災者の心に寄り添う生活支援など、学生たちは自らの力で現地を踏

り、互いに助け合い、一丸となって地域への復興支援に奔走した。あの日刻まれた痛みの記憶と「隣人に寄り添う」教訓は、関学精神の根幹として今も脈々と受け継がれている。

2011年の東日本大震災では多くの学生が自ら支援をした。

震災支援の歩みは東日本大震災や熊本地震にとどまらない。2024年の能登半島地震においても、本学の学生やボランティア団体は石川県七尾市の被災地に足を運び、仮設住宅での交流や地域の復興支援に汗を流してきた。継続的な支援を続けてきた。

時間かもしれない。キャンパスに通う現在の学生の多くは2016年当時はまだ小中学生であり、当時の熊本地震や支援活動を直接知る世代ではないだろう。しかし、節目の年に再び起きた今回の地震は、私たちに「記憶の継承」と「当事者意識

「Mastery for Service」——隣人のために自らを鍛え、捧げる姿勢が、今まさに試されている。被災地に寄り添い続けることの意味を、キャンパス全体で改めて問い直したい。

関西学院大学新聞総部
定期購読募集中

▽詳しくはコチラから

関西学院大学新聞
正式創刊100年
1926-2026

關西學院新聞

學生會時報

關西學院學生會時報

關西新聞時報

関西学院交響楽団 第147回定期演奏会



第147回定期演奏会の様子＝同団体提供

神戸大学交響楽団への募金活動も

関西学院交響楽団は7月12日、門真市民文化会館ルミエールホール大ホール（大阪府）で第147回定期演奏会を開催した。

客演指揮として、井村誠貴氏が出演。2006年の初共演以来、5度目の共演となった。

井村氏について、部長の谷口裕也さん（神学部4年）は「答えを与えるのではなく、自分たちで考える時間と成長の機会を与えてくださった」と感謝の思いを述べた。

プログラムの選曲では全体のコンセプトや統一感が重視

された。ボロディン「交響曲第2番短調」やチャイコフスキー「交響曲第4番短調作品36」を揃えることで演奏全体にまとまりと深みが生まれた。

さらに、交響曲を2曲演奏するという難易度の高いプログラムにも挑戦した。奏者にとって体力、集中力の面で負荷の大きい内容となったが、各パートが緻密に連携し、重厚な響きを作り上げた。

谷口さんは、「チャイコフスキー『交響曲第4番』第4楽章のクライマックスで奏者全体が一つになり、言葉では

言い表せないような一体感や高揚感が高まり、楽しかった」と振り返り、達成感をにじませた。

当日の会場には幅広い年代の観客が訪れ、開演前から期待を込めたさわめきが広まった。演奏が終わると同時に客席からは一斉に拍手が湧き起こり、しばらくの間会場全体が温かい拍手に包まれた。

近年はホール代や楽器の運搬費が高騰し、交響楽団の運営も厳しい状況が続くが、自力での資金確保に取り組みながら演奏を続けている。

さらに今回は、台風被害によ

り練習拠点が浸水し、楽器が損傷した神戸大学交響楽団を支援しようと会場で募金活動を実施した。集まった支援金は、修繕費や活動再開の費用に充てられる予定で、音楽を通じたあたため合いの姿勢を見せた。（澤田佳歩）



廣瀬佳恋部長（左）と山田純さん（右）＝8月22日、学生会館新館2階、坂口智朗撮影

第100回定期演奏会に向けて 文化総部マンドリンクラブ

卒業生と合同練習

関西学院大学文化総部マンドリンクラブは8月22日、第100回定期演奏会に向けた卒業生との合同練習会を関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス新学生会館3階音楽練習場6で行った。今回は練習会の初日で、現役部員と卒業生がともに演奏した。

第100回定期演奏会は、11月28日に東りいたみホール大ホール（兵庫県伊丹市）で開催する。演奏会は3部構成で、3部には現役部員に加えて卒業生も参加するOB・OG合同ステージを予定している。

練習会は、卒業生の自己紹介から始まった。久しぶりに演奏会へ参加する人もいる中、各々現役時代の思い出や今回の演奏会に向けた意気込みなどを語った。和やかな雰囲気の中で交流を深めた後、定期演奏会で披露する曲に向けた練習へと移った。

演奏中、指揮者の大森秀則技術顧問（文学部卒）がパートごとに細かい指示を出し、演奏者は楽譜にメモを取るなど、演奏会に向けて曲のポイントを一つ一つ丁寧に確認していた。

今回の練習会に参加した岡



合同練習の様子＝8月22日、学生会館新館3階、坂口智朗撮影

本篤史さん（商学部卒）は現在のマンドリンクラブについて「2回りくらい年齢は違いますが、頼りにしています。よく考えて行動しているから、失敗を恐れず挑戦してほしい。その中で卒業生としてフォローできたら幸いです」と現役部員への信頼を口にした。

廣瀬佳恋部長（商学部3年）は演奏会について「卒業生は

参加人数が50人前後と、昨年から倍増しており心強く感じる」と話す。定期演奏会は第100回という節目を迎え、不安やプレッシャーを抱える中、「卒業生が演奏する姿を見てちょっと心がほぐれた感じがした」と卒業生とともに演奏することへの安心感を語った。（佐藤朝陽）

部室 だより 文化総部マンドリンクラブ

関西学院大学文化総部マンドリンクラブ（以下KGMCC）は新学生会館3階音楽練習場6で毎週月曜日、水曜日、土曜日に練習している公認団体だ。創部は1917年、毎年開催する定期演奏会は今年で第100回に至るなど、これまでに築いてきた歴史を感じさせる。

「今年やらなかったらいつやるん」と意気込みを語ったのは廣瀬佳恋部長（商学部3年）だ。その言葉通り、今年のKGMCCは新たな挑戦が続いている。

その一つが「本気の大新歓」だ。今年は新入生歓迎会（新歓）を例年より長い4か月間実施し、確定新歓の前日までInstagramの投稿を欠かさず行なうなど、積極的な広報活動を展開した。

また、学内ボスターの掲示や学外での積極的な依頼演奏、伊丹市に定期演奏会の後援依頼を行なうなど、学内外でKGMCCの認知度を向上させる取り組みを入れている。廣瀬部長は「まずKGMCCという存在を知ってもら

い、足を運ぶきっかけを作りたい」と広報活動を積極的に行う理由について説明した。

新たな挑戦が続ける中で、思うような結果が出ず苦しむ場面もあった。

入念な準備を重ねた最後の「絶対何とかなるから大丈夫だ」と励まされた。

その後予想を上回る14人の新入部員が入部した。「なかなか結果が出ない瞬間もあったけれど、私は同期の力で乗り越えた」と廣瀬部長は回顧した。

今年KGMCCに入部した山田純さん（法学部1年）は、1年生の中で最後に入部した。どの団体に所属するか迷っていたが、「KGMCCの先輩たちに熱量を感じた。自

分もKGMCCで充実感や達成感を味わいたいと思った」と入部を決めたきっかけを語った。

山田さんが感じるKGMCCの魅力は、部員同士の温かさだ。「先輩方が優しく教えてくれたり、些細な成長であっても褒めてくれたり、一緒に喜んでくれたりするところ」と口にする。活動中には自然と場が盛り上がり、「心の拠り所というか、安心できる場所」と表現した。

今年の11月28日に第100回定期演奏会を行い、来年には創部100周年を迎えるKGMCC。廣瀬部長は「これまでの伝統を大切にしながら、今のKGMCCらしさも出していきたい」と今後の抱負を述べた。伝統を受け継ぎながら新たな挑戦も行うKGMCC。その歩みから今後も目が離せない。（佐藤朝陽）



前半残り3分、ゴールを決め3対3と追いつき喜ぶ選手ら＝佐藤朝陽撮影

前半執念で追いつくも

8月27日、きんでんアリーナ（岸和田市総合体育館）で開催された第22回全日本大学フットサル大会で、関西学院大学フットサルクラブ「Premier 06フルミエール」が愛媛大学フットサル部と対戦し、4対6で敗れた。2年連続2回目の出場だった関学大は、初戦で姿を消すことになった。

試合は互いに点を取り合う展開となった。前半残り4分、1対3で2点を追う関学大は相手シュートをセーブした直後のプレーで坂井權仁主将（教育学部4年）がシュートを決め1点差に迫る。さらに畳みかけるようにフリーキックのこぼれ球を押し込んで同点とし、前半を3対3で折り返した。

後半は序盤、互いに1点を取り合い4対4とする。その後、相手にゴールを許し再び追う展開となった。関学大は残り4分の時点で、ゴレイロ（GK）を5人目のフィールドプレイヤーとして参加させる攻撃的な戦術をとった。しかし、残り56秒でゴレイロ不在のゴールにボールを運ばれ、点差を2点に広げられた。5人による猛攻も及ばず、そのまま敗退という結果に終わった。

部室移転のお知らせ

新聞総部部室は学生会館新館3階から2階に移転しました。これからも関西学院大学新聞のご愛読をよろしくお願い致します。



学生会館新館2階 新部室

関学大フットサルクラブ

全国初戦敗退

連盟祭の様子＝同団体提供



関西学院大学応援団総部をはじめ関西大学応援団、同志社大学応援団、立命館大学応援団からなる関西四私立大学応援団連盟は9月11日、東大阪市文化創造館 Dream House 大ホールで第47回連盟祭、四雄の宴、を開催した。人々が一堂に会し、大きな盛り上がりを見せた。

連盟祭は二部構成となっており、第一部では主に各大学に分かれて伝統的な演武を披露する。第一部の最初の演目であるオープニングステージ、そしてチアリーダー部合同ステージ。4校が一つのステージに集まり、壮麗なスタートを見せた。

また、第一部では各校を象徴するマスコットソングを披露した。関学大は「関学エイトマン」として学生たちに親しまれている「関学勝利の歌」を披露し、澄み渡るようなメロディとリズムミカルな演武で観客を巻き込んでいった。続いて、第二部の見どころである合同マスコットステージでは、4校が再び同じステージ上に集まり互いの応援曲をパフォーマンスした。試合応援でお馴染みの「ショータム

体育会直近成績

10月2日時点 アメリカンフットボール部	関学大 2-1 立命大 (9月6日・わかさ京都)
▽関西学生リーグ	関学大 6-2 立命大 (対立命館大2勝)
(9月6日・MKエキスポ)	関学大 6-1 関学大 (9月13日・ほっと神戸)
関学大 70 (14-0、21-7、21-0、14-0) 7 甲南大	関学大 5-9 関西大 (9月14日・ほっと神戸)
(9月13日・MKエキスポ)	関学大 1-1 関西大 (9月25日・ほっと神戸)
関学大 47 (6-0、20-3、7-0、14-0) 3 同大	関学大 9-3 同大 (9月26日・ほっと神戸)
(9月27日・MKエキスポ)	雨天中止
関学大 35 (14-0、7-0、7-7、0) 7 近大	(対同志社大1勝)
〔戦評〕	(10月2日・ほっと神戸)
関学大は圧倒的な攻撃力で後期開幕3連勝を飾った。甲南大、同大を大点差で退けると、27日の近大戦も35対7で快勝。攻守に他を寄せ付けず独走態勢を築く。	関学大 3-0 京都大 (対京都大1勝)
硬式野球部	〔戦評〕
▽関西学生秋季リーグ	関学大は立命大を連破し好発進した。伝統の関関戦は1勝2敗で落としたものの、25日の同大戦では打線が爆発し9対3で快勝。京都大にも勝利し、現在5勝2敗で首位追撃へ向け勢いを維持している。
(9月5日・わかさ京都)	サッカー部
▽第50回総理大臣杯全日本大学選手権	▽関西学生リーグ
(9月2日・遠野多目的)	(9月19日・三木防災)
	関学大 2 (0-0、2-0) 0 甲南大 (9月23日・三木防災)
	関学大 2 (2-0、0-1) 1 大院大 (9月27日・関大千里山)
	関学大 4 (1-0、3-0) 0 立命大
	〔戦評〕
	関学大は後期開幕3連勝と上々の滑り出し。甲南大、大院大を連破した勢いのまま、27日の立命大戦は4対0で圧勝した。攻守が噛み合い首位戦線を猛追している。
	11回戦
	関学大 2 (0-0、2-0) 0 広経大 (9月4日・遠野多目的)
	12回戦
	関学大 1 (1-2、0-1) 3 大体大
	〔戦評〕
	関学大は初戦で広経大を2対0で下し好発進した。しかし、続く2回戦の大体大戦では前半に先制するも、相手の猛攻を止められず1対3で逆転負け。惜しくも2回戦で姿を消した。

神戸三田

■神戸三田支局
〒669-1330
三田市学園上ヶ原1番
e-mail
kgpress.ksc@gmail.com
Instagram
@kg_sanda
X (旧Twitter)
@KG_sanda
ホームページ
www.kgpress.jp/ksc/

神戸三田キャンパスで開催のイベント情報や身近な話題、取材してほしいことなどを上記メールアドレスやダイレクトメッセージにご連絡ください。

四季のKSC



特集 総合政策とは何か？

自然と人間の共生、持続可能な都市の創造、急速に進化する情報通信技術の活用方法、国際人権レジームの拡大と擁護……。現代社会の複雑化した諸問題の解決には、個別的学問領域の横断的理解が必要である。関西学院大学総合政策学部は従来の学問領域にとらわれず、問題解決並びに政策立案能力を身に着けた人材を養成することを目的として、1995年4月に兵庫県三田市の神戸三田キャンパスに開設された。

一方、多様な学問分野を横断するという特徴から、往々にして「総合政策学部は何をする学部なのか分からない」「一体総合政策学部の学生は何を目的に学ぶのか」といった声が学内外から聞かれることも少なくない。

そこで本特集では「総合政策学部とは何か」をテーマに、神戸三田支局が総合政策学部で教鞭を執る3名の教員に取材を行った。具体的には、医療制度を専門とする宗前清貞教授、都市環境を研究する客野尚志教授、元環境省レンジャーであり、国立公園等自然公園を研究する佐山浩教授の3名に総合政策の意味や、学部が持つ特性をうかがった。

3名の教員が描く「総合政策学部とは何か」という課題に迫り、総合政策学部で学ぶ意義を探る。

宗前清貞教授 訴える「学びの核」



宗前清貞教授

教授は医療制度を専門とし、政治学の教鞭を執る。総合政策学部への考えや、教育への思いを聞いた。

総合政策学部で学ぶ上では何が
必要か。総合政策学部都市政策学
府がつくる公共政策がどのように
科で公共政策を研究する宗前清貞
形成されるのかを説明していく学

問だと説明する。政治が「意思を決めていく行動」であれば、政策は「政府が仕上げた成果物」なのである。

政策を成果物と捉える事は、総合政策学部での学びにもかかわらず。これには宗前教授自身の経験が背景にある。政策にはそれぞれ事情があり、先入観だけで公共性の有無を決めつけることはできないのだと、政策における公共性を正確にとらえる事の重要性と困難さを語った。

こうした経験から、宗前教授は一つの学問分野だけで政策を見ることの難しさを指摘する。総合政策学部には社会科学を中心とする他の政策系学部と違い、言語学や情報工学を研究している教員もいる。こうした幅広さは多様性を生む強みである一方、焦点を失っている側面もあるという。

一方で、単に専門性を高めればよいわけでもない。宗前教授は金融政策を例に挙げてテーマに対して多角的な視点から接近することの重要性について「金融という一つの事象でも、どの学問から接近するかによって見えるものは異なる」と語った。

一方で、幅広く学ぶことだけでは学際的にはならない。宗前教授

佐山浩教授

「豊かに生きる」ための4年間

総合政策学部は、幅広い分野を学ぶことができる一方、具体的に何を

学んでいるのか分りにくい学部でもある。今回、環境庁・環境省で勤務した経験を持ち、現在は総合政策学部で教鞭を執る佐山浩教授に総合政策学部で学ぶ意義について聞いた。

佐山教授は、総合政策学部の大きな役割として「教養を身につけること」をあげる。総合政策学部には、大学入学時点で将来やりたいことが明確に決まっていなくても、興味を

持つ教員に自ら会いに行くことだからこそ大学の4年間で「生き方」を探る旅として自分の興味や将来の方向性を探る時間だと捉えてほしいと訴える。

「ある程度コアとなるものがあつて初めて異なる領域の学びが

つながり、立体的になる」と語る。では、学生が総合性を身につけるには何をすべきなのか。宗前教授は学部の教育体制について、総合性を体系的に身につけられるカリキュラムになっている点を弱点として挙げる。総合性を実現するには、学生に広さを与えるだけでは十分ではないという。

宗前教授自身は法学部出身である一方、経済学や経営学、文学など他学部の授業を幅広く履修した経験がある。幅広い学問を学んだこと自体は良かったと振り返る一方、やみくもに授業を取るだけではダメだと感じたそう。

そのため、宗前教授は学生には自分が何に関心を持ち、どの領域を軸に学んでいるのかを意識して

は学際的にはならない。宗前教授

り合いになれるチャンスである」。

そうした経験そのものが、大学で学ぶ意味だと佐山教授は話す。佐山教授が繰り返し口にしていたのが「教養」という言葉だった。技術は進歩し、AIをはじめ新しい技術が次々と登場する。一方で、歴史や哲学、地理などを通して身につけた知識や、それらをもとに「きれいだな」と感じる。自然の

中では美しいものに会い、心が動いても価値を持ち続ける。一見すると、直接的に仕事と結びつかないように思える学問も世界や社会を理解するための「教養」につながる。佐山教授は、幅広い学問を横断して学び、「教養」を身につけ、そこから自分の関心を見つけ、深に人生にもつながっていくと佐山教授は力を込めた。

客野尚志教授

分野を越えて社会を見る

関西学院大学総合政策学部の客野尚志教授は6月17日、神戸三田キャンパスで取材に

応じ、都市政策の視点から総合政策を学ぶ意味について語った。客野尚志教授は工学を専門とし、現在は都市の温暖化やヒートアイランド現象など、都市環境に関する研究に取り組んでいる。

客野教授は、総合政策という言葉を分けて考える必要があると話す。「総合」は、さまざまな分野を幅広く学び、視点を多様化していくこと。「政策」は、課題を解決するために計画を立て、物事を動かす方向性を示すことだという。

幅広く学ぶだけでなく、学んだことをどのように社会の課題解決につなげるか。その点

大学4年間は、人生の中では長いようで短い。しかし、その4年間で何を学び、誰と出会い、何に興味を持つかは、その後の長い人生にもつながっていくと佐山教授は力を込めた。

総合政策学部で学ぶことの意義は、自ら学び、行動し、さまざまな人や学問と出会いながら、自身の「豊かな生き方」をさがしていくことなのかもしれない。

（若果航志）

問がどうなっていくのかを常に意識している」と話す。研究成果を実際の都市政策につなげるには、社会科学の知識を持つ教員や専門家との連携も欠かせないという。

総合政策学部の学生について、客野教授は「社会を良くしたい、社会の問題をどうにかしたい」という気持ちを持つ学生が多い」と語る。知識を身に付けるだけでなく、現実の課題に向き合い、その解決を考えようとする姿勢が特徴だという。

客野教授自身も、複数の分野を横断しながら社会の課題と向き合ってきた。今回の取材を通して見えてきたのは、総合政策学部での学びが、単に幅広い知識を得ることにとどまらないということだ。異なる分野の知識を結び付け、現実の社会にある課題の解決策を考える。都市を研究する客野教授の言葉から、総合政策を学ぶ意義が見えてきた。

（張奕暉）

NHK特集ドラマ「手塚治虫の戦争」



ドラマについてのインタビューに応じる鈴木航さん
＝7月22日、NHK 大阪放送局、田爪翔撮影

鈴木航さん(44)はインタビューで手塚治虫の作品を起用した事について、「誰もが知っている手塚氏を通して戦争について考える機会になってほしい」と語った。

(前川勇)

戦後81年目の夏を迎える中、8月12日(水)午後10時からNHK総合で「手塚治虫の戦争」という特集ドラマが放映された。NHKでは夏に毎年、先の大戦の記憶や記録を後世に継承するために太平洋戦争をテーマにしたドラマや特集が放送される。今回のドラマでは数多くの名作を生み出した漫画家の手塚治虫が描いた「紙の砦」の光景が再現された。「紙の砦」は手塚氏が自身の戦争体験を如実に描いた作品だ。

昭和3年に生まれた手塚治虫は、思春期である10代の頃に太平洋戦争を経験した。戦時下では芸能や漫画など文化に対して厳しい目線が向けられた。漫画を描くことが好きだった手塚氏は周りから厳しい批判を受けた。苦境に立たされても、手塚氏は細々と漫画を描き続けた。NHKは今回のドラマで、

戦時の記憶がますます薄れていく現代では自由や夢を持つことが当然になっている。大学生を含めた今の10代や若者に「戦争が起きるといかに自由がなくなっていくか」を考えてほしいのがこの作品の狙いだ。大人を含め、戦争を知らない全ての人にドラマを通じて、「戦争を他人事にせず、我が事として捉えて想像する」ということを訴えている。

チーフ・プロデューサーの

鈴木航さん(44)はインタ

ビューで手塚治虫の作品を起

用した事について、「誰もが

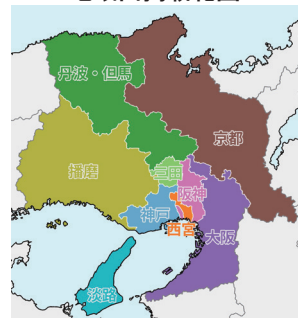
知っている手塚氏を通して

戦争について考える機会に

なってほしい」と語った。

地域

地域面掲載範囲



■兵庫県

西宮
三田
阪神
神戸
播磨
丹波・但馬
淡路

■関西

大阪
京都

地域面記事
デジタル版一覧
はこちら



戦争を我が事として捉える契機に

戦時下の中高生の生活に焦点を当てた。ドラマの舞台は戦場の最前線ではなく、戦後の生徒たちが主役だ。「紙の砦」の作中で主人公の大森鉄郎が漫画を描くことを非難される場面がある。戦時中、数多くの若者が自由や夢を断られた。戦時下の空気が生きにくさと不自由を生み出した。夢や希望を持つのは現代の若者も当時も変わらない。



関学生らに愛され続ける一杯

「トップコーヒー」は、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス正門のすぐ近くにある喫茶店。1972年の創業以来、関学大関係者や地域の人たちに愛されてきた。店内に流れるジャズやアンティーク家具、暖色の照明が、落ち着いた雰囲気を出している。

オーナーの藤本憲明さんがおすすめるのは、オリジナルマグカップで味わう「フレンドコーヒー」(税込み470円)。4種類の豆をブレンドしており、酸味が少なく味はまろやか。自家製のチーズケーキといったくのもおいしい。



レトロな雰囲気を醸し出す店の外観

今津線・阪神国道駅



(写真上) 副駅名が書かれた阪神国道＝8月24日、阪神国道駅、田爪翔撮影

(写真下) 開院した西宮総合医療センター前＝8月24日、西宮市津門大塚町



阪急電鉄株式会社は7月1日から今津線の「阪神国道駅」に副駅名として「西宮総合医療センター前」を設定した。同日、最寄りに兵庫県立西宮総合医療センターが開院することにあわせて利用者の利便性を高める狙いだ。

副駅名「西宮総合医療センター前」設定

西宮総合医療センターは県立西宮病院と西宮市立中央病院が統合して開院した。同駅は西宮総合医療センターから徒歩2分の場所にある。同院の開院によって利用者増加が見込まれることから利用者に分かりやすく案内することが目的だ。

阪急電鉄の副駅名は西宮北口駅の「阪急西宮ガーデンズ前」や宝塚駅の「宝塚大劇場・宝塚ホテル前」が命名されている。



神戸市宮住宅・兵庫県宮住宅ほか
電気設備保全会社 畑中電気合同会社
〒653-0834
兵庫県神戸市長田区川西通5丁目107番地の8

Mastery for Service
羽ばたけ、世界市民

が多い。コロナ禍のとき、オンライン授業の影響で関学生の利用客が減少したが、関学大職員の利用に支えられた。現在は、授業がない日も足を運ぶ関学生や1日2回訪れる関学生もいるという。

来年には創業55周年を迎える。藤本さんは「何年かぶりに来たというお客さんも多い。学生時代のことを思い出してもらえたら」と笑顔で話した。

(今村早織)

【「トップコーヒー」】

▽住所 西宮市上甲東園三の九の一▽営業時間 平日は午前九時半～午後六時、土日は午前九時半～午後四時▽定休日 年末年始▽電話 0798527481

神姫バスICカード「NicoPa」 2027年冬廃止

関学 NicoPa



神姫バス（姫路市）は、2027年冬を目処に同社独自のICカード「NicoPa（ニコパ）」を廃止すると発表した。廃止に伴い同社の定期券を来年4月頃から「ICOCA（イコカ）」と「PiTaPa（ピタパ）」に切り替える。関学生のみが発行される「関学NicoPa」の今後については現在検討中となっている。

関学NicoPaの今後「検討中」

学生「割引運賃が維持されるか不安」

関学ニコパは、関西学院大学と神姫バスが提携し導入した学生専用の割引ICカードだ。現金チャージ時には25%のプレミアが付く。加えて神戸三田キャンパス（KSC）への指定通学路線を対象に特別割引運賃が適用されるのが特徴で、KSC生の足を支えている。例えば、KSCと三田駅間では通常運賃480円のところ、関学ニコパ利用で実質運賃が312円まで大きく下がる。



◇現在の神戸三田キャンパスから各地への運賃表

乗車区間	通常運賃	特別割引運賃	実質運賃
大阪梅田（ハービス大阪）	890円	680円	544円
新大阪駅北口	990円	690円	552円
千里ニュータウン（桃山台駅）	890円	680円	544円
箕面萱野駅	890円	680円	544円
三宮・新神戸駅	860円	610円	488円
新三田駅	360円	320円	256円
三田駅	480円	390円	312円
南ウッディタウン駅	300円	270円	216円

神戸三田キャンパス扱いのバス停は、「関西学院大学」「関西学院前」「学園3丁目」のいずれか

「妊婦らしからぬ」奇抜な服

綿矢りさ著『グレタ・ニンプ』の主人公・由依は、長きにわたる不妊治療に苦しんでいた。保険適用はあれども治療は成功するかも分からない治療は心身を削る。治療をやめた途端に自然妊娠したとき、由依の中で何かが弾けた。口調は孫悟空のようになり、頭は紫色の坊主頭になり、「妊婦らしからぬ」奇抜な服を着て過ごし始めた。

「コミカルに描かれるその変化は、決して奇行ではない。社会が女性に押し付けてきた価値観に抗い、自分の人生を取り戻すための由依の主張だった。」

由依は言う。「一番ストレスになるのは、自分が自分に『こつてあれ』って価値観を押し付けてるんじゃないかと思うんだ。――女はおしとやかでないとダメ、母親はしっかりしてないとダメ――こういう社会の「見えない圧力」に悩む人は今も少なくない。しかし、一番自分を縛り付けているのは、ほかでもない自分自身ではないだろうか。さらに由依は主張する。「今の時代の女たちは、もともと自由に生きなきゃダメと思うんだいね」――産むか産まない

か。働くか働かないか。どんな姿で生きるのか。その選択は、社会ではなく自分が決めるものだ。

少子高齢化、情報過多、ジェンダー規範――さまざまな問題が渦巻く現代社会で、私たちはどう生きるか。由依の姿は、問いかけてくる。

大学生は、サークル仲間などとにかくに過ごす姿が「充実している」とされることもある。だが、一人で学問に没頭したり、静かに自分を見つめる時間を選んだりするのも、確かな生き方だ。誰かが描いた「大学生像」に縛られる必要はない。由依が「こうあるべき女性像」を壊したように、他人の価値観に左右されず自分の人生を歩む、強い私たちがほしい。

（柏木美夏）

甲東園駅大混雑



9月11日8時頃の甲東園駅西口階段
＝学生課提供

アプリ甲東内通行求める

阪急甲東園駅（兵庫県西宮市）の西口階段周辺で深刻な混雑が予想されるとして、関西学院大学学生課は9月18日、学内ポータルサイト「Kwic（クイック）」で混雑への注意を呼びかけるお知らせを配信した。9月末から原則対面授業期間である「コアウィークス」が始まることで

現場ではバスの待機列が停留所から階段まで伸び、一般の歩行者通行を妨げるなど非常に危険な状態となっている。混雑の主な原因は、駅直結の複合施設「アプリ甲東」で8月に始まった工事。設置された仮囲いの影響で西口階段の幅が狭くなっている。12月まで工事が続く予定で、地域住民からすでに授業期間が始まった高等部生の登校時間帯における危険性を指摘する問い合わせがあり、状況が判明した。

現場ではバスの待機列が停留所から階段まで伸び、一般の歩行者通行を妨げるなど非常に危険な状態となっている。現場ではバスの待機列が停留所から階段まで伸び、一般の歩行者通行を妨げるなど非常に危険な状態となっている。現場ではバスの待機列が停留所から階段まで伸び、一般の歩行者通行を妨げるなど非常に危険な状態となっている。

学生課「余裕を持った通学を」

後半に繰り上げ、2階入口から構内を経由して1階出入口へ抜ける通行ルートを特別に開放した。

今後の混雑ピークに向け、学生課は三田駅からの徒歩通学や、時間に余裕を持った通学の検討を呼びかけている。

学生課職員は取材に対し「混雑時は状況に応じて柔軟に対応するとともに、関西学院大生として周囲への配慮と安全な通行を心掛けてほしい」と、マナー徹底を呼びかけている。

（田爪翔）



工事のため設置された仮囲みで通常より階段の幅が狭くなっている

生協食堂リニューアル



昼休み多くの学生が「BIG PAPA」に集まっている
＝学生会館新館地下1階、9月28日、今村早織撮影



夏季休暇中でも賑わう「BIG MAMA」＝学生会館旧館1階、8月31日、田爪翔撮影



(写真左) リニューアルされた売店の「Pocket MAMA」
＝学生会館旧館1階、10月1日、今村早織撮影

(写真下) リニューアルされた学生ラウンジ
＝学生会館旧館1階、10月1日、今村早織撮影



レイアウト抜本的見直し

学生会館新館・旧館

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで、昼食時の混雑緩和や利便性の向上、利用者が快適に過ごせる居場所づくりを目的とした大規模なリニューアル工事が実施された。対象となったのは学生会館新館の食堂「BIG PAPA」、学生会館旧館の食堂「BIG MAMA」、売店の「Pocket MAMA」および1階学生ラウンジで、7月中旬から9月中旬にかけて段階的に改修が進められた。BIG MAMA食堂は8月1日に、BIG PAPA食堂は9月24日にリニューアルオープンした。

混雑緩和と快適環境目指して

今回のリニューアルにおける最大のポイントは、限られたキャンパス内の空間効率の最大化と、ストレスフリーな動線の確保にある。これまで昼食時のピークタイムには、手荷物等による座席の占有が課題となっていた。これに対応するため、新たに導入された机および椅子には、カバンや手荷物を掛けたり置いたりできる機能が備えられた。これにより座席の占有が抑制され、利用効率の向上が図られた。

他にも新設されたものではソファ席とコンセント付きのカウンター席がある。BIG PAPA食堂ではこれまでカウンター席がなかったが窓際に新しく設置された。また、椅子の後方スペース

には十分な通行幅が確保されるよう、全体の配置レイアウトが抜本的に見直された。混雑時にも学生や教職員がスムーズに移動・利用できる環境が整備された。

さらに、家具の更新にあわせて天井や床、壁といった内装も刷新された。日常的な昼食利用だけでなく、休憩時における利用者間の交流が多角的に促進され、より快適性の高い空間へと生まれ変わった。

一足先に工事が完了し、8月1日のオープンキャンパスから営業を再開したBIG MAMA食堂では学生たちが楽しく食事をする姿が見られた。

改修後初めて食堂を利用した文学部2年の女子学生は驚きを口にしつつ「きれいな環境で食事をできるから嬉しい」と笑顔で話した。新しい

くなったキャンパス環境は、日々の学生生活やキャンパスコミュニティの利便性向上に大きく寄与している。
(田爪翔)

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。

SANDA AUTOMOBILE SCHOOL
SAS
SINCE 1963

兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.pcn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com



三田自動車学院携帯用HP
QRコード